

違いを受け入れて

甲東中学校 二年 宇住庵 薫

「世界の恒久平和の達成を願い・・・」

これは、鹿児島市が平成二年に出した平和都市宣言の一文である。私は、この宣言を読んだとき、世界の恒久平和とは何か、どうすれば世界の恒久平和を達成できるのか、よく分からなかった。外国に行ったこともないし、外国の方ともあまり交流がない私には、想像がつかなかった。そんな私に、ある出会いがあった。

九月、中学校に新しい英語の先生がいらっしやった。先生は、オーストラリアのパス出身だった。このとき、私はふと思いついた。私たちの学校の東側にある広い道路、それがパス通り、なのだ。鹿児島市は、一九七四年にパス市と姉妹都市提携を締結し、それ以来、教育やスポーツ、経済の交流を行ってきた。パス市は南緯三十二度に位置しており、ひかりの街と呼ばれている。一方、鹿児島市は、北緯三十二度に位置し、太陽とみどりの街と呼ばれている。このように、似ている市同士で、親善訪問をきっかけに交流が始まり、姉妹都市となった。それからは、訪問団の相互訪問、高校生の派遣、パスの高校生の受け入れ、公園や通りの命名など様々な交流が行われている。新しく来られた先生は、鹿児島市とつながりの深い方なんだと思った。

ある日の英語の時間。先生が、パスと日本の違いについて話された。

「パスでは体育の時間も体操服には着がえません。」

それを聞いたとき、私はおどろいた。日本では、体育の時間やそうじの時間に体操服に着がえるのに、パスでは着がえない。その文化の違いにおどろいたのだ。それをきっかけに、私は、外国と日本の違いについて興味をもった。調べてみると、お辞儀をする、食器

を持つ、青信号を待つ、缶コーヒーを飲むなど日本人なら普通のことでも、国によってはおどろくことなのだ。と知った。国ごとに文化や考え方の違いがあるんだと改めて感じた。

私には、仲のよい友達がいる。たくさん話をしたり、遊んだりしていつも楽しい時間をすごしている。しかし、そんな友達でも、意見のくい違いで口論になることがある。相手の意見を素直に聞けば口論はおさまるのだろうか、なかなかそれができない。お互いに考え方に違いがあることを理解し、分かり合おうとしないと解決しない。相手の立場や考え方を理解しようと努めることによって、対立はさけられるのではないのだろうか。

これらは、社会のあらゆる問題にも関わる大切な考え方だと思う。反社会勢力による人々の殺害、宗教や人種の差別、トラブルによる殺人事件。すべては考え方の違いによる対立から始まっている。私は考える。自分の考えと違うものは必要ないとばかりに殺害する。戦争もテロ行為も相手との意見の違いを理解せず、言葉で向き合わず、暴力で向き合っているだけだと思う。私は、お互いの意見、考え方の違いを理解し、認め合えば、戦争もおこらないと思う。

私の友達との口論も含め、私の身近なところでも、多くの言い争いが見られる。少しのことですぐ暴言をはいたり、軽い気持ちでかかったりする人もいる。言う方は、軽い気持ちだが、言われたほうは傷つくという場合が少なくない。それもとらえ方に違いがあるからだと思う。「このくらい」と思っている、相手は違う意味でとらえてしまうのだ。

社会レベルの大きな問題から個人レベルの小さな問題まで関わってくるのは、意見の違いだ。私たちが世界の恒久平和を達成するためにできることは、相手への理解を深め、偏見や差別をなくすことではないだろうか。

このようなことを考えさせてくれたパス出身の英語の先生。先生との交流を大切に、鹿児島市のパスとのかかわりにも関心をもっていきたい。